



# 【第2弾】 月例勉強会

特養、コロナ禍ドキュメント

この秋、クラスターに見舞われたある施設の事例

# 施設概要



- 特養（ユニット型個室） 110名
- ショートステイ（ユニット型個室） 10床
- ショートステイ（多床室） 20床
- デイサービス 40名

# 概要



- 感染者

- 利用者 6名（男性1名、女性5名）

- 1名（女性）が陽性、5名は無症状 → 全員入院

- 職員 6名

- 全員が無症状 → 保健所指定のホテルに宿泊

- 濃厚接触者

- 職員 約40数名

- 検査で陰性 → 出勤停止、2週間の自宅待機

- 検査人数

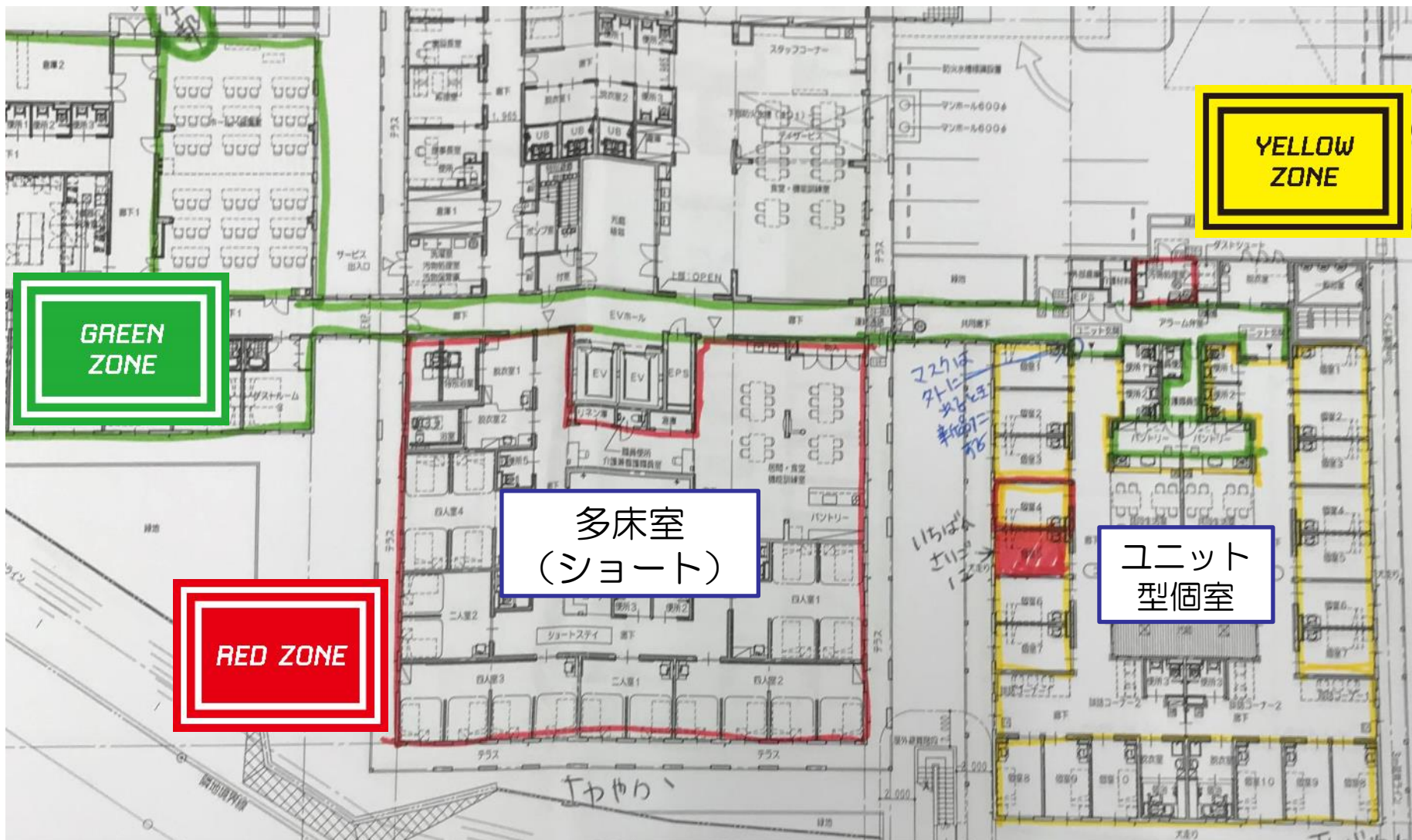
- 利用者 119名 、 職員 139名

# 終息までの経緯



9/29 (火)	ショート利用者1名が陽性と判明
10 / 1 (木)	県のクラスター等対策チームが来所、ゾーニングや職員への感染管理指導を実施（12日までに述べ15人を派遣していただいた）
10/2 (金)	ショート利用者1名、職員4名が感染（県が発表）
10/3 (土)	ショート利用者1名、職員1名が感染（県が発表）
10/4 (日)	ショート利用者2名、職員1名が感染（県が発表）
10/6 (火)	特養（ショートから本入居）利用者1名が感染（県が発表）
10/21 (水)	最後の入院者が退院
10/28 (水)	施設内の最後の感染者が確認され入院した後、新規感染者が確認されていないことから、集団感染は終息したものと県が判断

# ゾーニング (1F)



# ゾーニング (2F)



ユニット型個室  
上半分が特養  
下半分がショート

RED ZONE

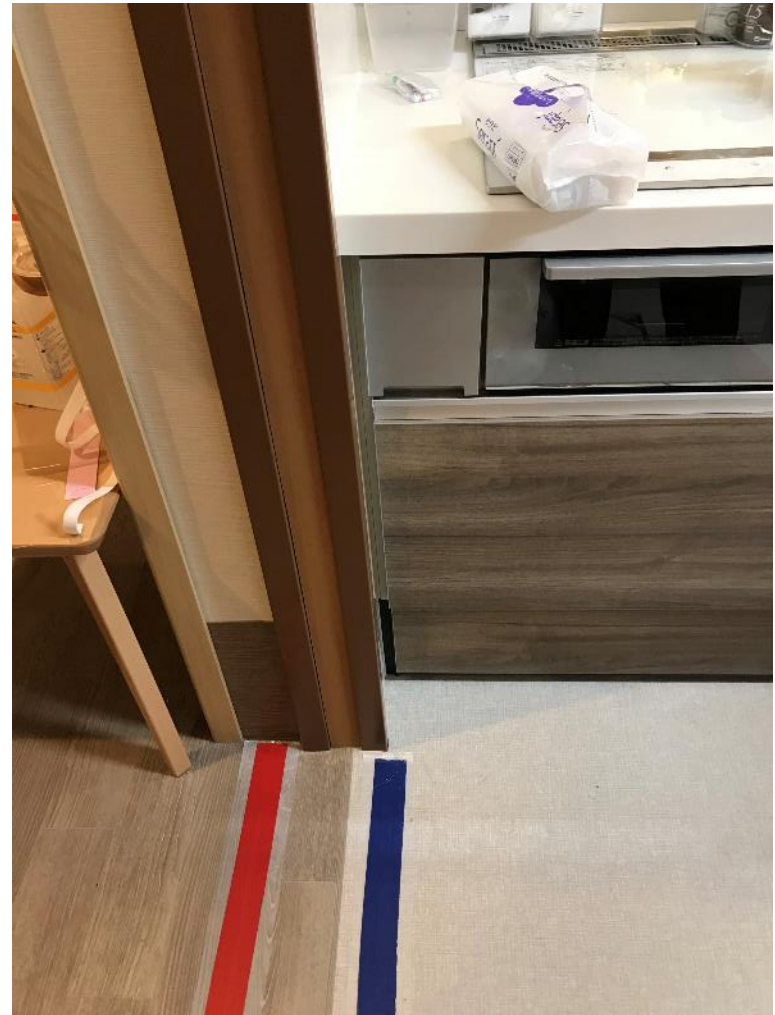
夜勤者が往来するので  
ユニット全体をレッドに

ユニット  
型個室

ユニット  
型個室

GREEN  
ZONE

# ゾーニング・テープで色分け



# ゾーニングについて



- 高齢者施設でのゾーニングの難しさ
- 認知症の方の対応…心を鬼にして



# ユニットのトイレを汚染物集積所に



- ユニット内でスタッフがケアを完結できるようにするため、ユニット内のトイレ（1カ所）をリネン・ゴミ・洗濯物などの汚染物集積所に



## ユニット型のメリット

洗濯ものや汚染物を  
持ち出さずに済んだ



感染拡大防止に  
多床室だと難しい

# デイとカフェを倉庫に



廃棄物を入れる箱



感染対策用品  
消費量も一目瞭然

# 参加者の質問から



- Q.防護服はどのくらい必要か
  - A.1日当たり、600枚入りのケースを消費
- Q.食事はどのように提供したか
  - A.委託業者に廃棄できる紙皿を提供し、盛り付けてもらった。ユニットの中でゴミとして処分。

# コロナ・災害時のケア



- 最低限のケア（水分・食事・排せつ）
- 勤務シフト
  - サービスを縮小（デイおよびショート受入れの中止）することで長時間勤務を回避
  - 夜勤は8時間を16時間に変更
  - 法人からの応援要員 →レッドゾーンに
  - 勤務交代はしっかり行ってもらった

災害時のケアマニュアルが必要

職員は十分なサービスを提供できないことに  
ジレンマを抱える

# 職員への対応



- 宿泊場所の確保

- レッドゾーンの職員 → 静養室、ゲストルームなど
- グリーンゾーンの職員 → ビジネスホテル

- 危険手当

- リフレッシュ休暇

- グリーンゾーンの職員、医務、事務職員

# 振り返って思うこと1



- 事前の備えの見直し
  - 物品の消費が思った以上に早かった。災害時の備えの量を見直しが必要だと感じた。
  - 法人内の施設間での物品の受け渡しのシステム化を図った。
- ありがたかった クラスター対策班の対応
  - 委託業者などに現状を伝え、協力を仰いでくれた
  - 根拠を持った感染対策の指導が心強かった
    - 手洗い 使用する量、時間など 指導 見える化

# 振り返って思うこと2



- 管理者はセルフケアが必要だと実感
  - 施設長としての重責、趣味を持ったりする
- ユニット型個室の強み
  - ユニット型からは一人しか感染者が出なかった。
  - 場所だけでなく、物のゾーニングもしやすかった
  - ゾーニングできるから封じ込めやすい